



第37回夏期 ジュニア大使友情使節団

～親日の国・ブルネイを訪ねて～

IFAは、第37回夏期ジュニア大使友情使節団をブルネイ・ダルサラーム国に、事前研修を含め7月27日から8月2日まで7日間の日程で派遣した。ここに参加団員の旅の記録を紹介する。

【7月27日(土)】

初めて各地域から参加のジュニア大使と成田空港近くの事前研修会場で会いました。とても緊張しましたが勇気を出し話しかけ、仲良くなることができました。ブルネイでの日本文化紹介の練習では、皆一生懸命で、自分の意欲も高めることができました。団員や現地の人たちと仲良くなって、7日間有意義に過ごしたいです。

【7月28日(日)】

今日はブルネイに出発する日です。みんなと会って2日目だったのでまだ緊張していました。飛行機に乗るとわくわくしました。ブルネイに着いた時、独特のにおいがして海外に来たと実感しました。ナイトマーケットではどの

お店でもドリアンを売っていて、とても人気がある果物なのだと思います。一口食べてみました。変な味でした。

【7月29日(月)】

ブルネイの学校で、伝統的な遊びを教してもらいました。歴史や遊びは日本と似たところもあり、ルールが覚えやすく楽しかったです。生徒の皆さんは、日本語について聞いてきたり、「ありがとう」「おはよう」など日本語での会話も時々あったりと、とてもフレンドリーでした。



【7月30日(火)】

学校で日本文化紹介をしました。パディのイシャが着物をほめてくれてとても嬉しかったです。習字で名前を書いたときに本当に喜んでくれて、やりがいがありました。

日本とブルネイの文化をテーマにした英語クラスでは、たくさんお話できたり、笑い合ったりすることができて満ちました。ドラマの授業ではたくさんのお友達ができて嬉しかったです。残り2日、ホストファミリーとたくさん話したり、日本語を教えたり、マレー語を教わったりしたいです。マレー語で自己紹介できるようになるこ

とが帰国前の目標です。

【7月31日(水)】

大使館では大使と直接会ってお話をすることができました。外交活動での信頼の大切さや、若者に「外国に関心をもって欲しい」という思いが伝わりました。他にも外交の事などたくさん聞くことができ有意義な時間でした。

そして今日はホストファミリーと過ごせる最後の日でした。昨日は水上ボートで水上集落を回ったり、28代目の国王のモスクとその周りの公園に行ったりしました。今日はとてもきれいな夕日をながめ、ナイトマーケットにはとてもおいしい食べ物がありました。最初の2日間は慣れませんでした。今はもっといたいくらいです。

【8月1日(木)】

今日は市内視察とホストファミリーとのお別れ会でした。ブルネイ伝統工芸品トレーニングセンターでは、織物の刺しゅうをしていました。布にびっしりと刺しゅうがあり、すべて人の手で行っているようでとても驚きました。水上集落では、文字通り、水の上に様々な家が建っていました。私達が見た水上集落は、とても進歩的な珍しい都市だということを知りました。エアコンや水やガスが使えとても発展した楽しそうな集落でした。

お別れ会では3日間一緒に過ごしたホストファミリーの方々と離れるのがとても悲しかったです。次にブルネイに行くことがあったら会いたいです。

(参加者日誌より抜粋、校正：編集)

世界万華鏡

スウェーデン留学生の見た日本 スタンケヴィチュ グレググ 「電車の中ほどまでお進みください」

日本人はルールを守り、集団主義的な社会で生きていると世界では言われています。理由は、単純に言えば、治安のためだからと言われることが多いです。皆さんはどう思いますか。外国人から見ると、日本社会は理想的なように思えるかもしれません。しかし、私の体験は別のことを物語っています。

その体験は、世界中の人々が利用する公共交通機関、特に東京の電車に関係しています。電車を通して、異文化というよりも、日本以外の国と共通する文化を見つけることができます。東京に住んでいるので、残念ながらラッシュアワーの電車によく乗らなければなりません。あの混雑した電車は、まるで戦場のようです。人々は互いに押し合い、スペースをとり合っています。先ほど話した治安はどこへ行ったのでしょうか。私はあまり優しくないことだと感じています。混雑した電車に乗り込むと、隣の人に押されて、「本当に立っているスペースがないのだろうか」と疑問に思うことがあります。奥を見ると、1箇所、2箇所、もしかしたら3箇所も立てる場所を見つけることができます。「あ、どうして誰も真ん中へ行こうとしないんだろう。少し

ずつ真ん中へ行けば、みんな楽になるのに。」皆さんも、そう思いませんか。

ちなみに、私はアメリカのニューヨーク市で育ちました。そこでも、ラッシュアワーや混雑した電車は日常的な光景です。しかし、乗客は鳥かごの中に詰め込まれたようにぎゅうぎゅうになっていても、たまに、お互いに目を合わせ、理解し合った表情を見せます。「一緒に我慢しよう」という暗黙の了解を感じます。個人主義と言われるアメリカ人ですが、たまに集団主義的な行動をとっているのは面白いですね。

私はニューヨークだけでなく、スウェーデンのストックホルムにも住んでいます。ストックホルムにもラッシュアワーがありますが、そんなに混んではいません。でも、スウェーデン語で面白い表現を耳にしました。「Finns det hjärterum, så finns det stjärterum!」これは、「心の中にスペースがあれば、お尻のためにもスペースがある」という意味です。満員電車の中で日本人は心の中にスペースを持っていますか。

このような友情は、東京では珍しいように感じます。電車に乗っているのは、孤独な活動のような印象を受けます。ほとんどの乗客は、スマホや自分



の空間を守っているようで、周りの人に気を配っているようには見えません。そのため、電車の中は、効率的で意欲的な空間とは言えないでしょう。皆さんも、電車の中の空間をよくしませんか。そこで、皆さんにお願いがあります。心の中にスペースを作り、お尻のためだけでなく、足、腕、頭のためにもスペースを作ってください。そして、何よりも「電車の中ほどまでお進みください」。

※令和6年8月30日実施、IFA 後援「ARC 日本語学校スピーチ大会」優勝スピーチ。

令和6年9月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：ダイト印刷株式会社